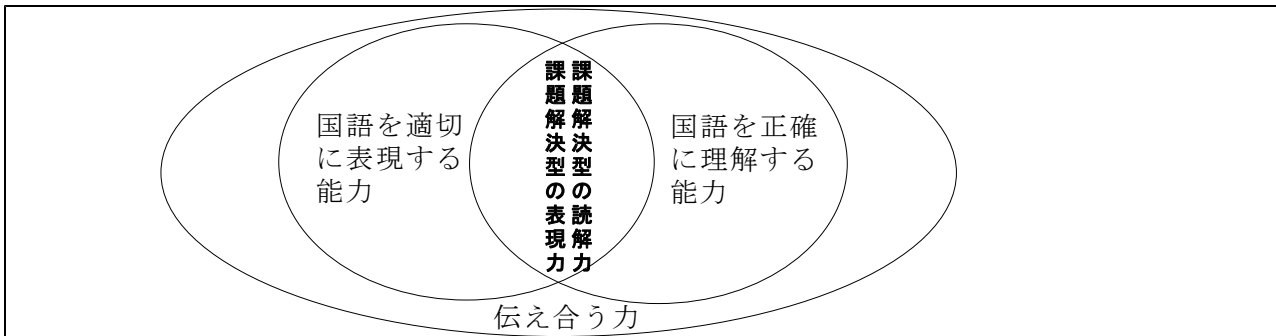


# 国語科

## 課題解決に機能する言語能力を育成する指導の工夫

### ○ 主題設定の理由について 〈研究紀要 P 37〜〉

- ・ 本校国語科の前研究主題の成果と課題から
- ・ 本校児童の実態から
- ・ 課題解決に機能する言語能力とは



言語能力（国語を適切に表現する能力、国語を正確に理解する能力、伝え合う力）と課題解決型の読解力、課題解決型の表現力の関係図

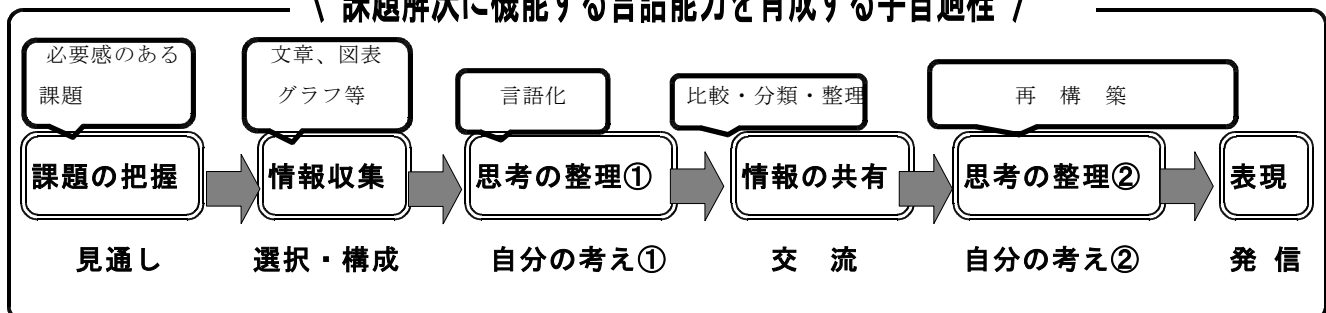
### ① 課題解決型の読解力

- 第1段階：課題（単元を貫く課題や1時間ごとの学習課題）をとらえ、見通しをもつ力
- 第2段階：課題に対する自分の考えを明確にするという目的をもって、文章を考えながら読む力（既得の知識や生活経験、読むことの技能等の全てを使った読み方）
- 第3段階：交流の中で自分の考えと他者の考えを比較・分類・整理をし、自分の考えを客観的にとらえる力
- 第4段階：課題に対する自分の考えを再構築し、表現する力
- 第5段階：新たな課題を見付ける力

### ② 課題解決型の表現力

- 第1段階：課題（単元を貫く課題や1時間ごとの学習課題）をとらえ、見通しをもつ力
- 第2段階：課題に対する自分の考えの根拠を明確にするために、情報収集をする力
- 第3段階：課題解決に最もふさわしい情報を選択し構成する力
- 第4段階：交流の中で自分の考えと他者の考えを比較・分類・整理をし、自分の考えを客観的にとらえる力
- 第5段階：課題に対する自分の考えを再構築し、表現する力

### 〈 課題解決に機能する言語能力を育成する学習過程 〉



○ 国語科で目指す児童像 〈研究紀要 P 39〜〉

① 課題解決型の読解力を身に付けた児童

課題を解決するために、言語能力を活用し、目的に応じて、文章や図表、グラフ等から読み取ったことを、自分の考えの根拠にできる児童。

② 課題解決型の表現力を身に付けた児童

課題を解決するために、言語能力を活用し、相手や目的に応じて、自分の考えの根拠を明らかにして、話したり書いたりできる児童。

○ 本校の研究主題との関わり 〈研究紀要 P 41〜〉

課題解決をするためには、課題を把握することが前提としてある。課題を把握するために使う能力の一つは、言語能力である。それは、目の前の事象や課題の内容を、言語で表し、言語で思考するからである。この課題を把握することが十分できていなければ、課題解決を図ることはできない。また、課題解決をするために、文章や図表、グラフ等を読み、自分の考えを表現するときにも、使われているのが言語能力である。思考したことを言語化し、互いに、伝え合っていくからである。

このように、言語を通して学びを自分のものとし、言語を通して互いに学びを高め合いながら学びを続け、自らもっている力を向上させていくことが重要である。この学習過程を繰り返し、既習内容を生かしながら学習することは、マスターキーを身に付けると共に、思考力・判断力・表現力を高めることにつながり、本校の研究主題『学びの本質』を育むに近付くと考える。

○ 主題設定にせまるための視点と本日の提案授業との関わり

視点1 課題解決のための目的に応じた効果的な読み方

【課題解決型の読解力】

○ 1年3組「ずうっと、ずっと、大すきだよ」

ぼくが犬をもらわなかった理由をとらえるために、叙述を基に想像を広げて読み、自分の考えをまとめられるように指導する。自分の考えをまとめるときは、ぼくになりきって、日記を書く。

○ 2年3組「お手紙」ほか

がまくんの人柄をとらえるために、「がまくんとかえるくん」シリーズを複数読み、自分の考えをまとめられるように指導する。

○ 3年1組「モチモチの木」

豆太の人柄をとらえるために、教科書や人物関係図を基に、自分の考えをまとめられるように指導する。

視点2 課題に対する自分の考えの効果的な表現の仕方

【課題解決型の表現力】

○ 5年2組「天気を予想する」「グラフや表を引用して書こう」

説得力のある意見文にするために、「図表やグラフを選ぶ意図や選び方」について話し合い、自分の意見文に適した図表やグラフを選べるように指導する。

○ 6年2組「自分を見つめ直して」

『劇的な』随筆にするために、構成の組み立てや書き出しの工夫について、考えが深められるように指導する。

(3) 本校の研究主題との関わり

本校の研究主題「『学びの本質』を育む授業の創造」では、目指す児童の具体的な姿を「問題解決の過程で、多様な考えを生み出して、明確な根拠をもって考えを絞り込むために複数のマスターキーを身に付け活用していく姿」と定義している。そして、目指す児童の具体的な姿から二つの視点を設定し、研究を進めている。

○水平思考：課題に対する自分の考えを複数出すこと

【マスターキー】①問題把握 ②発想力 ③水平比較力 ④分類・整理力

○垂直思考：課題に対する自分の考えを再構成し、よりよい判断にしていくこと

【マスターキー】①分類・整理力 ②分析比較力 ③取捨選択力

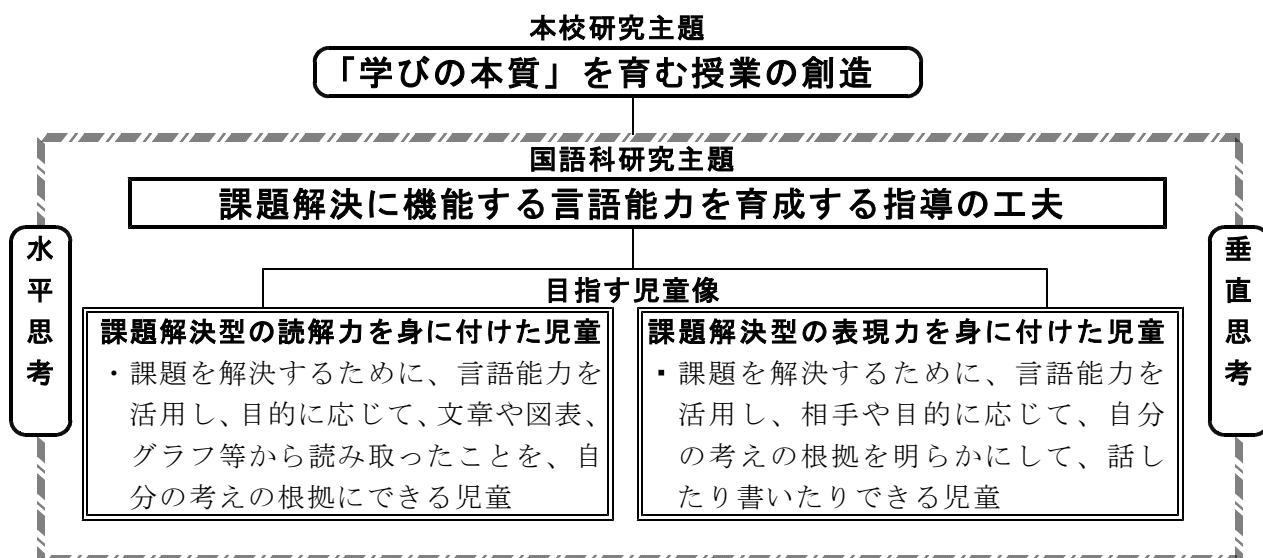
本校の研究主題「『学びの本質』を育む授業の創造」と国語科の研究主題「課題解決に機能する言語能力を育成する指導の工夫」とは、大きく関わっている。「課題解決に機能する言語能力」の視点から、まとめると以下のとおりになる。

課題解決をするためには、課題を把握することが前提としてある。課題を把握するために使う能力の一つは、言語能力である。それは、目の前の事象や課題の内容を、言語で表し、言語

で思考するからである。この課題を把握することが十分できていなければ、課題解決を図ることはできない。また、課題解決をするために、文章や図表、グラフ等を読み、自分の考えを表現するときにも、使われているのが言語能力である。思考したことを言語化し、互いに、伝え合っていくからである。

これらのことは、国語科の授業だけでなく、日常生活の中でも行われることである。そのため、国語科で身に付けた力を他教科や領域等で生かせるようにするだけでなく、日常生活でも生かせるようにすることが重要である。課題解決の土台は、言語を通して、物事を思考・判断し、自分の考えを表現していくことである。そして、その過程の中から、学びを自分のものとして確立していくのである。

このように、言語を通して学びを自分のものとし、言語を通して互いに学びを高め合いながら学びを続け、自らもっている力を向上させていくことが重要である。この学習過程を繰り返し、既習内容を生かしながら学習することは、マスターキーを身に付けると共に、思考力・判断力・表現力を高めることにつながり、本校の研究主題「『学びの本質』を育む」に近付くと考える。



「複数のマスターキーを身に付け活用していく児童」を育てるために、国語科として、これまでの「課題解決に機能する言語能力」の育成で養った力を発揮させ、さらに高めていくことが大切であると考えます。また、他との関わりをもつことによって、表現することの喜びを味わえるようにしていきたいと考えます。(須藤 康親)